

事業名 一般国道475号
東海環状自動車道事業

〔地元小中学生とともに自然環境の復元を
図るドングリ育生事業〕

受賞機関 国土交通省中部地方整備局
名四国道事務所
国土交通省中部地方整備局
愛知国道事務所

事業実施期間 平成11年度～現在
事業費 720,000百万円



植樹風景

事業等の特徴

学識経験者等で構成される懇談会において策定された当山間地域の道路整備に必要な環境保全施策に基づき整備を行った。特に、法面緑化事業においては、沿線小中学校の児童（1,700名）が育苗したドングリの苗を植樹するなどの住民参加を取り入れた事業も行い評価を得ている。

事業の概要と利用者等の評価

本道路（通称MAG^{マグ}ロード（三重のM、愛知のA、岐阜のGをあわせたもの））は、自然豊かな山間地域を通過している。

そこで、東海環状自動車道における「自然環境」に着目した具体的な施策を検討すべく、学識経験者、地元有識者及び地元行政で構成する「懇談会」を平成10年度に組織した。懇談会では、幅広い意見・指導のもと、貴重動植物等の保全施策等が策定された。

特に、自然環境との調和という観点において、道路法面でのコナラ林等の復元を含む道路緑化目標が策定された。環境施策を具体化するため、地元環境に精通している地元有識者と地元行政からなる「ワークショップ」を組織し、道路法面緑化においては、



全体説明状況

平成11年度より地元小中学生参加のドングリ育生事業が実施された。

事業の特色

- ・地元環境有識者の参加による環境施策懇談会及びワークショップの開催。
- ・道路法面緑化事業においては、沿線住民（地元小中学生）参加型の環境施策として取り組むことができるドングリの育生事業として、ドングリ拾い、育苗及び植樹が計画された（平成11年度より沿線19小中学校）。

審査委員会委員の意見等

- ・ワークショップの開催、多数の小中学生の参加による法面植樹という手間のかかる手法を労を惜しまず積み重ね、どちらかといえば地味な事業である法面緑化の環境、道路保全上の重要性への理解を深め、実現した点が評価される。
- ・木の成長とともに、植樹した小学生の心身の成長を期待したい。そのためにも、維持管理へボランティア活動の組織化も次のステップとして考慮されたい。そのためにも、その植えられた木と参加者のモニタリングが必要。気の長いプロジェクトとして今後とも推進すべきである。
- ・ワークショップを開催して整備計画を策定していること、法面緑化事業においてドングリを育苗するところから、小中学生が参加して進められていることを評価したい。こうした実践が、山の樹木の大切さの学習につながることを期待したい。
- ・継続的な教育活動として定着して欲しい。市民参加も、世代的間の隔たりをとる、つまり総合的な社会のバリアフリーになるのではないかなと思う。